



てるびっと

No. 8

2002.3

京都府海外研修KYOのあけぼの会



海外研修KYOのあけぼの会
会長 田中 田鶴子

会員の皆さまにおかれましては、お変わりなくお元気にご活躍のことと拝察いたします。

当会も平成元年の創立以来、国際的視野を有した女性リーダーの育成と資質の向上をめざすため、充実した取り組みを実施して参りました。現代における女性関係団体のネットワークづくりに貢献できたことを、大変喜ばしく感じております。

さて、21世紀は、「平和」「人権」「環境」の世紀といわれています。特に、女性に関しては、昨年に人権の擁護と男女平等の実現に向けた「DV防止法」が施行され、また、社会の機構も男性主体からの変換

など、女性も男性も等しく共に国や地域を支えている社会の確立がめざされています。性を問われることなく、持てる能力を十分に発揮できる社会を実現するためには、女性自身の自立の意識の確立も一層大切になることでしょう。

新しい世紀の一歩となった昨年、「KYOのあけぼのフェスティバル2001」では、情報時代に対応した「IT体験コーナー」を企画し、また、研修会として「21世紀を安心して暮らせるライフスタイルを求めて」をテーマに施設見学や講演を行いました。時代に即した、貴重な体験や新しい発見・気づきの場が設けられましたことを大変嬉しく思っております。

本会では、今後も、めまぐるしく変化する時代に目を向け、豊かな地域社会づくりや女性団体とのネットワークの強化、国際交流の促進等、積極的な活動を行い、実りのある「海外研修KYOのあけぼの会」の運営と地域社会の発展に貢献して参りたいと存じます。会員皆様におかれましてもご理解いただき、より一層のご協力をお願いいたします。

第12回 KYOのあけぼのフェスティバル2001

見つめ直そう女と男、新しい世紀の1歩から

平成13年10月12日(金)・13日(土) 於:京都府民総合交流プラザ

今年のKYOのあけぼのフェスティバルで私たち、京都府海外研修KYOのあけぼの会は、ワークショップ IT体験「あなたもインターネットに触れてみませんか」を企画しました。

新世紀最初の「KYOのあけぼのフェスティバル」は、新世紀幕開けに相応しく第一日目は「知事鼎談」に始まり、2日目は、瀬地山 角先生の「男も女も仕事をし過ぎないように」と、現代の課題そのままのテーマの講演でした。

公募で参加の20のワークショップも、回を重ねる毎に内容も充実して、それぞれのグループが頑張っていることを共感できる幅広い良い企画ばかりでした。

今回初の試みの「パワフルミュージカル」も会場とステージが一体となって盛り上がりました。

私達の、「京都府海外研修KYOのあけぼの会」では、ワークショップ「IT体験」を京都商工会議所女性会と共催で企画致しました。

国を挙げてIT時代と言われる今、特に、中高年の女性が、少しでも早い機会に、パソコン、インターネットに慣れておきたいと言う考えで実施しましたが、新設された女性センターのパソコンをフル活用し、充実した意味のある2講座でした。

今回の体験が、一人ひとりの更なるステップアップのきっかけになることを願いつつ参加者の感想を伺いました。



IT体験参加者 感想

あなたもITネットに触れてみませんか、のタイトルに引き付けられ参加しました。我が家にもパソコンなるものが存在し、前に座れば世界が見えると期待をして高い授業料を出し何度か通ったことがあります…が、覚えが悪いのか、頭の老化か、なかなか機能が覚えられずリタイア。メールは送れ、インターネットで目的のものが調べられるが、さて、買物となると相手が見えず声も聞こえないと不安になり買えない状態です。ゲームだけは上達、横から夫が「高いオモチャやなあー」とあきれている始末。

IT体験コーナーでは短時間でしたが、大きい画面と各卓上での説明は大変分かりやすく、質疑応答もあり、やる気満々で真剣な表情の参加者をみていたら、私も頑張ろうと早速家に帰りマニュアルを開けて再挑戦。今度こそと思う機会を与えてくださったこと大変感謝をしています。

柴田 美子

あけぼの会のIT体験コーナーで、インターネットの仕方を教わりました。帰宅後、早速復習をしました。京都四条界隈の美味しいお店を検索。詳しく載っていて新しい発見です。これからはおおいに活用しようと思っています。

パソコンについては2年前、次男が就職活動をしていた5月の事です。会社からの内定通知を待っていたのですが、連絡なし。駄目だったのかとがっかりしていた夜10時、「内定通知があった」と弾んだ次男の声。「えー本当」と部屋に入ると、パソコンの画面に「内定通知」。承諾するならばメールで返事をとあり、早速返事をしていました。電話や文書であるものと思込んでいた私にとって、驚きでした。その後も印を押した文書は来ないで、私が「大丈夫?」と聞くと「大丈夫に決まっている」と笑われ、社会は進化しているのだと思いました。我が家には3台パソコンがありますが、この原稿は慣れたワープロで書いています。教わったのを機会に、「パソコン通」になろうと心に…決めています。

金子 啓子



パワフルミュージカル 踊って考えました

「武田さん、あけぼのフェスタ2001にパワフルミュージカル公演があるんやけど、それに舞台上でダンス踊ってくれへん?」

「エエッ! 舞台上、ダンス?」

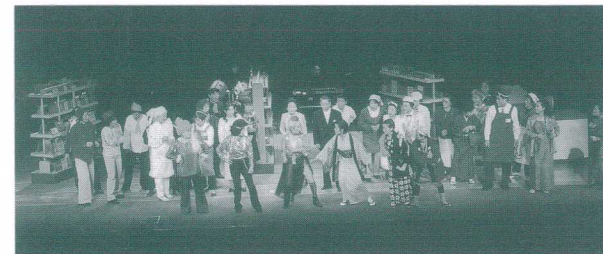
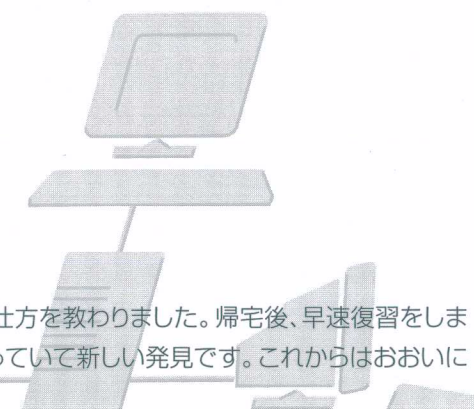
NPO法人「発起塾」製作出演による「コンビニダンスストア!」の劇中ストアでの客となり数分の練習だけで気がいたら踊っている有様でした。

「なんだかこの頃少し腹の立つ事が多いの。いらいらしている私がおかしいの」の歌詞とリズムに合わせて、手足を左右に振りステップをふみ、幕明けを飾りました。つづいて塾生による初老の夫婦が他愛ない事で夫婦喧嘩を始め、これがもとでケンカはコンビニを訪れる人々に次々と飛び火し舞台は修羅場と化してしまう。活気もあり面白いやりとりの連続でしたが、思いやりのある言葉を交わす中、相手の立場を理解し、仲直りをしハッピーエンドで終わります。

一時はどうなるかとハラハラしながら見ていた私達もホッとした中高年者によるミュージカルでした。

近年争い事の絶えない地球人。早く眼を覚ませ! と訴える諷刺寸劇と考えました。

武田 公子



2001年度 海外研修KYOのあけぼの会研修事業

2001年10月22日(月) 於:学研都市木津町

21世紀を安心して暮らせるライフスタイルを求めて

“21世紀を安心して暮らせるライフスタイルを求めて”をテーマに、京都府最南端の学研都市で、紅葉の秋、人生80年代の心豊かな暮らし方を思索しました。いつも、今が快適、人と自然と社会の調和を考える積水ハウス納得工房、福寿園茶研究センター及びRITEでの講演、施設見学、体験を通して、高齢社会のバリアフリーを考え、高齢化時代の暮らしと快適環境を考えることができました。



RITE全景



高齢の方や身体が不自由な方の動作を疑似体験

■ テーマに誘われて参加、多くのことを学びました。 目崎 節子

「21世紀を安心して暮らせるライフスタイルを求めて」をテーマに研修会が、世界の最先端の研究が行われている「けいはんな学研都市」で開催されました。このテーマに興味を持って参加したのは、月末に環境問題の分科会に参加する予定があったのと、台所を電磁器にという思いがあつたことでした。始めに積水ハウス総合住宅研究所の納得工房で説明を受け、見学に入りました。玄関や居間は、主婦や見学者の意見、希望を取り入れて作ったという便利で合理的なものでした。その他一番興味のある、お風呂・お便所・台所などバリアフリーのデザインのものの見学、そのとき最近では障害のある人々を対象にするバリアフリーでなく、総ての人が快適に過ごせるユニバーサル・デザインとして制作しているとの説明に、新しい考え方を学ぶことができました。私が見学しなかった電磁器のキッチンのモデルがなかったのは意外でした。次に福寿園の施設でお茶の木の種類、世界各国のティーライフを見せていただき、日本の文化であるお茶室の見学とお抹茶のおもてなしを受け、とても良い気分になりました。3番目は地球環境産業技術研究機構(RITE)の環境に配慮した施設、RITEの本部施設の見学です。「地球に優しい研究所」を基本発想として設計された建物の中の自然涼房、自然通風システムによる研究環境の快適さ、雨水利用による建家循環及び省エネ効果、太陽光発電、燃料電池による新エネルギーの研究など自然の力を有効活用し快適生活の研究がなされている現場の見学は、目をみはるものがありました。私たちが環境、CO₂の問題を、小さいことでも身近なところから地球温暖化防止の気持ちを持って実行していかなければと再認識をしました。

多くのことが学べ、出会いがあり、有意義な研修会を有難うございました。

■ 是非若い人たちにもこの見学体験を 青木 妙子

「21世紀を安心して暮らせるライフスタイルを求めて」というテーマで行われた研修会に参加して、考えることが多くありました。

日頃から、時代に応じて新しい考え方が出来るよう意識的に努力していたつもりなのに、住宅の構造一つについてでも、自分が如何に、固定観念に捕らわれていることが多いか思い知らされました。

例えば、高齢化の生活空間は、出来るだけフラットな段差の無いバリアフリーが良いし、求められてもいると考えていました。

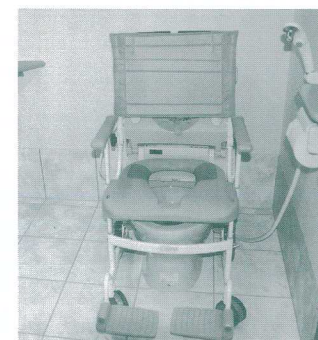
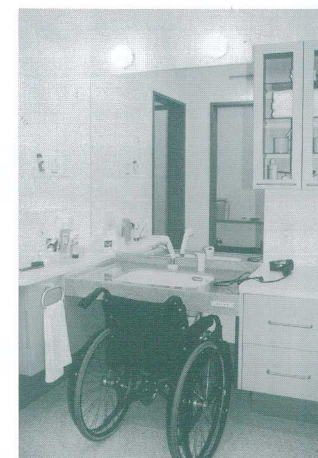
ところが、まず今回、トイレの埋め込みタイプを見て「はっ」としました。バスの浴槽は埋め込みが良いという事を聞いたことも見たこともありませんが、トイレは、手すり、移動椅子、その他の補助具の利用などしか頭に無かった自分に驚きました。

ダイニングやリビングにしても、段差を逆に利用し腰掛けにするなど、公共の場と違って住宅は発想の転換によって多機能な使い方が出来るのだと考えさせられました。

また、高齢化時代をみんなが豊かに生きるために、高齢者だけでなく、むしろ若い世代の方たちに、共に生きる人として、考えるヒントにして欲しいので、この見学体験を大いにしてもらいたいと感じました。

RITEでは、「ファーストステージの、基礎的調査研究の10年が過ぎ、セカンドステージの目的新産業パイロット研究開発の10年に入り、地球環境問題の解決を目指して、世界と協力して新たな技術の開発に、グローバルな研究活動を展開している」と、少ない時間で簡潔明瞭に説明していただけて良かったです。大切な環境問題を勉強するのにこんな素晴らしい場でもっと時間を掛けて勉強したいと思います。

福寿園CHA研究センターも、アロマテラシー的で良かったです。次回は何か一つに絞って学習を深めたいと思います。



車いす体験で使用時の作業性納得

■ 充実した一日でリフレッシュ 大橋 嬉子

横文字ばかりの今日、京都の南にすばらしい施設がある事は知っていたので一度見学したいと思っていました。RITE、積水ハウス、お茶の福寿園を訪れ美味しい京料理をいただきながら充実した一日でした。特に積水ハウスのキッチン、収納の合理的なモデルハウスはいつまでも頭の中から離れません。企画していただいた方々に感謝申し上げます。

■ 地球環境を再確認 武田 公子

地球生物の一単位としての人間が地球環境の問題を考える時、過去の流れを反省し将来への対策をたてなければならぬという思いにかられます。

一市民として身の廻りからすぐにとり上げられる方法として、私達は廃油を処理する為の回収運動が起って、毎月決められた日に決められた場所に家庭廃油を持ち寄り、学区単位で更に大きな回収運動へと広がっています。

地球の汚れを少しでも少なくするという気持ちを、一人ひとりが持つことから、そして、その仲間をひとりでも多く増やす事へと輪をひろげ、小さな一歩がやがて大きく実を結ぶ事を期待して活動しています。

そんな時、10月22日、あけぼの会研修事業として学研都市の先進技術開発に取り組む現場見学へ参加出来、大きな感動と強い刺激を受けました。

そして限りある地球資源を先進国の限られたものだけが享受する事なく、世界中が平等に適切に分配する知恵も共に持たねばと強く願いました。

表紙説明

表紙「あけぼの」は、京都府知事荒巻禎様の直筆で、インドネシア語(京都府友好国)「あけぼの」の意味です。京都府に息づく豊かな自然の美しさ、「花」しだけ桜さが菊。「木」北山杉。「鳥」オオミスズナギドリ。を戸塚フリス刺しゅうで表現したものを表紙絵としています。

